

血液内科研修プログラム

「一般目標」

血液疾患の患者の診断・治療を通して、臨床医としての基本的な知識・診療手技と血液疾患についての知識を習得する。また悪性疾患や易感染性の患者が多く、腫瘍の概念や化学療法の原因、感染症に対する知識を修得すると共に、全身を診察・観察して病態を把握する総合的な力を養う事を目標とする。

「行動目標」

1. 適切な診察（問診、視診、聴診、打診）が出来、患者の全身状態を把握・評価出来る。
2. 血球（白血球、赤血球、血小板）の増多及び減少、リンパ節腫脹などの原因を理解し鑑別診断が出来る。
3. 凝固異常・出血傾向について理解し鑑別診断が出来る。
4. 末梢血液検査の血液像、血液腫瘍における分子生物学的検査や細胞遺伝学的検査について解釈・評価する事が出来る。
5. 骨髄穿刺及び骨髄生検を実施し、代表的な血液疾患の骨髄像を評価出来る。
6. 腰椎穿刺を実施し、その検査結果を評価出来る。
7. 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など主な造血器系腫瘍の病態を理解し、抗癌剤治療の概略について述べる事が出来る。
8. 主な抗癌剤の原理、投与方法、副作用について理解し述べる事が出来る。
9. 手術、放射線治療、抗癌剤療法の適応・選択について述べる事が出来る。
10. 抗癌剤の髄注が出来る。
11. 中心静脈カテーテルの挿入及び中心静脈栄養が実施出来る。
12. 易感染性患者の管理及び支持療法について適切に対応出来る。
13. 感染症治療、特に発熱性好中球減少症について適正に対応出来る。
14. 輸血の適応及び具体的な実施方法や副作用について対応が出来る。
15. がんの告知・インフォームドコンセントについて適切に対応出来る。
16. 緩和的対応及び終末期における配慮及び臨終の立ち合いが適切に出来る。

研修方略

1.病棟業務

- ①指導医及び上級医の指導の下、5～8名程度の患者を担当する。
- ②主に血液悪性疾患（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）の患者を担当し、基礎知識や基本的手技を習得する。
- ③検査手順や診断方法、治療計画、問題点等について指導医と討議する。

- ④骨髄検査や髄液検査などの特殊な検査手技を修得する。
- 2. 外来業務
 - ①見学を希望する者は血液内科外来に同席し診察・検査の進め方を理解する。
- 3. カンファレンス
 - ①マルクカンファレンス（毎週火曜日 16：00～17：00）

前週に実施した骨髄穿刺標本を観察し、正常骨髄と主な血液疾患の骨髄像を理解する
 - ②血液内科カンファレンス（毎週水曜日 15：00～16：00）

自身の受け持ち患者についてプレゼンテーションを行う。
薬剤師、検査技師も同席し治療方針について検討する。
 - ③内科合同カンファレンス（毎週金曜日 16：45～）

英文抄読会と内科各科の代表症例を学会形式で研修医がプレゼンテーションを行う。

「評価」

- 1. 自己評価

EPOC 及び症例レポート、自己評価表を用いて自己評価を行う。
- 2. 指導医による評価

EPOC 及び症例レポートを用いて評価を行う。
- 3. コメディカル（看護師・技師）による評価

EPOC 及び評価表を用いて評価を行う。
- 4. 研修医による評価

EPOC 及び評価表を用いて診療科全体（指導内容、研修環境）、プログラム内容を評価する。